

# 無理なく取り組める新聞活用

宮崎市立倉岡小学校  
教諭 森 俊 幸

## 1 はじめに

本校は、2019年度よりNIE実践指定校となった。1年目は、児童も職員も無理なく取り組み、教育効果につなげることを念頭におき、実践を重ねた。2年目となる本年度は、新聞活用の幅を広げて実践する予定だったが、コロナ感染予防により、ほぼ昨年度と同様もしくは縮小した形での実践となった。

## 2 本年度の取組

### (1) 新聞購読及び配付について

実践指定校による無料での購読を、以下の表のような計画で行った。

	新聞名	配達月（2020年度）									
		5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
実践指定校による購読紙	朝日	1	1	1	1						
	毎日					1	1	1	1		
	読売						1	1	1	1	
	日経	1	1	1	1						
	宮日					1	1	1	1		

届いた新聞は、3～6年生に日替わりで配付した。週に1回届く、定期購読のこども新聞については、1・2年生と図書室に配付した。

### (2) 授業での取組

5年生の道徳で新聞を活用した授業を実践した。教科書にある題材ではなく、担任による自作資料での実践で、資料に新聞を活用した。

活用した紙面は、宮崎日日新聞の読者投稿欄である窓欄の「若い目 NIE 教育に新聞を」に投稿された児童の作文を活用した。

内容は、「ヘッドネーション」に関する投稿内容で、作文の文章を一部隠して児童に提示して予想させたり、提示後に考えさせたりした。その後、ジャーダックというヘッドネーションを中心に活動している団体の「ヘッドネーションがない世界が望ましい」という考え方から、多様性について考えさせた。また、終末では、自分たちの学級が多様性を認め合っているかについて考えさせた。

児童の投稿作文を活用したことにより、児童は、より親近感をもって授業に臨むことができていた。また、授業後では、新聞を手に取り、自ら記事に目を向ける児童も増えてきた。

### (3) 家庭学習での取組

- ① 本年度も、家庭学習で新聞を活用する児童が見られた。また、自分の感想を書いたり、アンダーラインを引いたり、児童が自ら工夫する姿も見られた。



- ② 家庭学習で取り組ませた作文を、「若い目」に投稿することを学校全体で行った。何人かの児童が紙面に載り、内容を給食の放送で紹介するなどを行った。  
また、児童の作文に対する感想が宮崎日日新聞の窓欄に寄せられるということもあり、より新聞に対する関心が高まった。

## 3 成果と課題

### (1) 成果

- 昨年度は、国語や社会での授業における活用にとどまったが、本年度は道徳でも実践することができた。また、児童の道徳的心情を深める上でも、新聞が有効であることが分かった。
- 以前から家庭学習で取り組んでいた作文を新聞に投稿することで、児童の書く意欲をさらに高めることができた。
- 児童が新聞記事を日頃から目にするすることで、2つ以上の資料を関連付けながら読む力の向上が感じられた。

### (2) 課題

- コロナの感染予防という面もあったが、昨年度から実践を深めることが、あまりできなかった。様々な状況下でも、効率的に新聞を活用できる実践を学ぶなど、今後も研修を深めていく必要があると感じた。
- 本年度の実践から、道徳性の育成にも有効であることが分かった。読解力の向上だけに目が行きがちだったが、SDGsの理解など、視野を広げて実践に取り組んでいきたい。